

オープン市場短信 (2015年4月)

2015. 4. 14

◆ 3月のCP市場動向

3月のCP（短期社債）月末残高は、14兆2171億円と前月比2兆6410億円の減少となったが、前年同月比では8か月連続して増加した。一般事法は、有利子負債圧縮目的のため残高削減を行い、前月比2兆9211億円の大幅減少となった。2月末に発行残が確認された企業のうち、3月末残をゼロとした企業は45社にのぼった。また、その他金融でも3266億円の減少となった。一方、金融機関とABCで6067億円の増加となった。

発行レートの動きについては、3月末日の案件や期内物については上昇地合いとなり、0.100%台の出合い中心であった。期越物は、投資家ニーズ強く横這いから低下地合いとなった。最上位格付け銘柄では、0.077%から0.09%割れでの出合い。1格銘柄では、0.080%から0.13%台前半での出合いとなった。

【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄(a-1+格)0.0770%~0.0899%。一般事業法人(a-1格)0.086%~0.117%。
その他金融銘柄(a-1格)0.088%~0.160%。

【業態別残高内訳】

(単位:億円)

業 態	3月末残高	2月末残高	増 減
一般事法	27,022	56,233	-29,211
その他金融	59,223	62,489	-3,266
金融機関	38,199	34,457	3,742
政府系金融	0	0	0
銀行等	14,128	12,791	1,337
証券	24,071	21,666	2,405
ABCP	17,727	15,402	2,325
計	142,171	168,581	-26,410

(注:買入消却分含む)

【格付け別の発行レート】

3月のCPLレートレンジ

(単位 %)

格 付	1ヶ月	2ヵ月	3ヵ月
a-1+(一般事法)	0.0820% ~ 0.0830%	0.0800% ~ 0.0840%	0.0770% ~ 0.0899%
a-1 (一般事法)	0.0830% ~ 0.1050%	0.0800% ~ 0.1330%	0.0860% ~ 0.1170%
a-1+(リース銘柄)	0.0869% ~ 0.0899%	0.0810% ~ 0.0893%	—— ~ ——
a-1 (リース銘柄)	0.0880% ~ 0.1020%	0.0940% ~ 0.1150%	0.0880% ~ 0.1600%
a-2	0.1000% ~ ケ0.30%	0.1030% ~ ケ0.30%	0.1000% ~ ケ0.30%

《CPオペ》

CP買入オペは、6日・18日が各々5000億円、26日は6000億円にてオファーされた。決算期末要因から、月末発行残が著しく落ち込むことを見据えたオペオファーであった。6日のオペでは応札額が1兆円を超えていたが、3月末越えのCP発行が少ないことや応札適格銘柄が限定されたこともあり、回を追うごとに応札額は低下した。26日のオペでは応札額が7626億円に止まり、按分レートは0.032%となって過去最低の0.001%に次ぐ結果となった。

【月末オペ残高：1兆9786億円】

日銀 CP等買入れオペ実績

(単位: 億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
3月6日	3月11日	5,000	13,125	4,991	0.093%	0.095%	47.9%
3月18日	3月23日	5,000	9,786	4,994	0.080%	0.089%	88.3%
3月26日	3月31日	6,000	7,626	5,989	0.032%	0.065%	80.0%

《ABC P》

ABC Pの月末残は、期末要因から前月比2325億円の増加となった。前年同月比では、1711億円の減少であった。

《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、3月末時点における発行登録企業数は、ヤンマーホールディングが新規登録を行ったため1社増加し、498社となった。

通算の発行企業数は変わらず、538社。

《CP現先市場》

現先(S/N)レートは、前月より低下し0.08%台後半~0.08%台前半での出会いとなった。月末にかけ、新規発行が減少する動きになると、0.07%台での出会いも散見された。

◆ 4月のCP市場動向

4月のCP償還額は約1兆7500億円で、前年同月の償還額（約1兆7300億円）を上回っている（除く、相対発行分・金融機関発行CP・ABC P）。

今月の発行動向は、3月期末で残高を大幅削減した鉄鋼・電気機器等の復活発行や他業種の新規発行が見込まれる。昨年は期落ち対比2兆4000億円程度の発行増となっており、今年も期初より連日発行増となっていることから、昨年以上の発行が予想される。

発行レートは、一般銘柄（a-1格銘柄）の3M物では、0.08%台前半ば～0.11%台前半の動きを予想する。その他金融・リース銘柄では、0.08%台後半～0.13%近辺を予想する。

1日に、日銀短観「CPの発行環境判断DI（全産業）〈発行企業ベース〉」の公表があった。それによると、大企業のDI（“楽である”－“厳しい”）は、全産業では、28%ポイントという結果となった。うち製造業のDIは、30%ポイントと12月調査比プラス1%ポイントとなったが、非製造業のDIは、27%ポイントと同6%ポイント低下した。

《CPオペ》

今月は、7日（実施済）・18日・26日と、計3回の入札が何れもオファー額4000億円にて予定されている（3月は、6・18日が5000億円、26日が6000億円のオファー）。7日のオペは、期初復活発行を行った企業等による応札可能銘柄が多かったこともあって、ディーラーの売却ニーズも強く、応札が1兆円を超え按分レートも前々回の水準に戻った。次回以降は、応札可能銘柄にもよるが現先レートも落ち着いており、横這い推移となるのではないかと見られる。

《CP現先市場》

S/N物のレポレートは、今月に入り落ち着いて推移し、0.02%前後～0.05%割れの出合いとなっている。月末付近で上昇しても0.07%程度ではないかと見られる。インターバンクレートは、0.055%近辺～0.065%近辺での動きを予想。

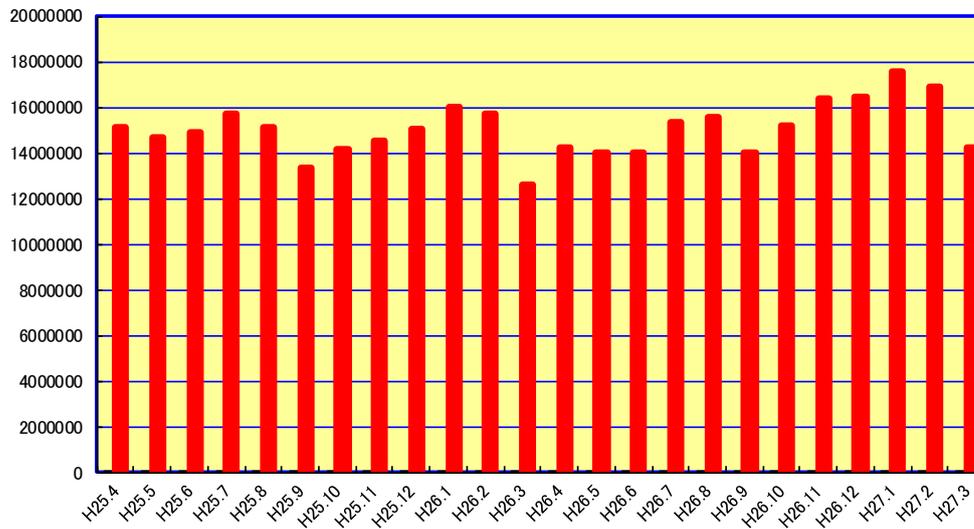
CP現先レートは、現在レポレートの影響と玉不足から0.06%台前半～0.08%前後での出合いとなっている。月後半発行増が予想されるため、やや上昇し0.07%台から0.08%台での出合いを予想する。

参考資料

短期社債月末残高 (25年4月～27年3月)

発行登録企業：498社（発行実績あり538社）

(過去2年間の残高を表示)



3月末発行残高ベスト20

3月末発行残高上位20社

(単位:百万円)

	発行企業名	3月末残高	2月末残高
1	三菱UFJモルガンスタンレー証券	818,500	650,500
2	三井住友ファイナンス&リース	803,100	750,000
3	三菱UFJリース	777,500	759,000
4	東京センチュリーリース	611,300	614,700
5	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	555,060	502,930
6	SMBC日興証券	520,700	558,600
7	みずほフィナンシャルグループ	500,000	500,000
8	みずほ証券	456,500	360,000
9	日本証券金融	440,000	302,500
10	大和証券	388,380	374,630
11	JXホールディングス	364,000	452,000
12	興銀リース	340,000	335,000
13	JA三井リース	337,000	337,000
14	芙蓉総合リース	323,700	332,700
15	エイペックス・ファンディング	296,350	276,550
16	三井住友信託銀行	293,300	221,200
17	スタンダードチャータード銀行	268,500	207,000
18	アルカディア・ファンディング	263,000	225,530
19	ホンダファイナンス	222,000	228,000
20	NTTファイナンス	207,000	248,000

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性について保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長(登金)第243号

大阪本社 〒541-0043 大阪府中央区高麗橋2丁目4番2号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目2番3号

加入協会 日本証券業協会